



よりよい未来のために 泥炭地を乾燥化から守る

泥炭地は地球表面のわずか3%の面積を占めるに過ぎませんが、世界中の森林よりも多くの炭素を貯えています—湿った状態が保たれればですが。

泥炭地には実にいろいろなタイプがあって、世界中のラムサール条約湿地の半数以上は泥炭地を含んでいます。

泥炭地で、賢明な利用が行われないと、炭素を長期間貯蔵しておくという、きわめて重要な機能が損なわれるおそれがあります。

泥炭地の水を抜くと、炭素が排出されたり、肥沃な土壌が失われたりしますし、低地沿岸地域では、深刻な地盤沈下や塩水の流入も招きます。

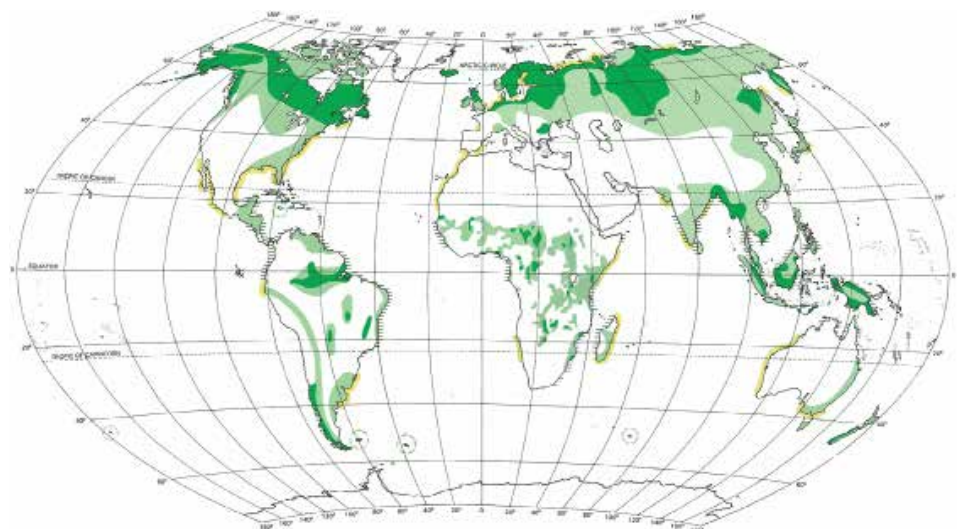
泥炭地

自然のままの泥炭地は、水の存在と特有の植生により特徴付けられます。しばしば深さ数メートル以上にも達する泥炭土は、有機物質と水で構成され、部分的に分解された植物体が堆積することにより形成されます。時に何千年にも亘って

積み重なった泥炭層には、花粉や、考古学的遺物、古代人の遺体などが保存されており、泥炭層は比類のない「過去を覗く窓」になっています。

地球上の炭素貯蔵と気候変動の緩和

泥炭地には、少なくとも、世界中の森林が貯蔵する量の2倍近くに相当する550ギガトンの炭素が固定されていると推計されています。一方で、泥炭地から水が抜かれると大量の二酸化炭素(CO₂)が放出されることになるため、泥炭地の再生は気候変動の緩和にとってきわめて重要です。



地球上のほとんどすべての国に泥炭地が存在します。この地図は、重要な泥炭地の分布を示しています。IPSの寛大な許可を得て、Lappalainen 1996より引用

- 泥炭 5%以下
- 泥炭 5~10%
- 泥炭 陸地面積の10%以上
- マングローブ
- 泥炭のある島
- 泥炭を含むことが多い湾や潟湖



泥炭地の再生のためには、水を含んだ状態に戻し、以前の水の動きを再現しなくてはなりません。そうすれば、残された泥炭土を守りつつ、再び泥炭形成が進むような状態を作ることができます。



1997年にインドネシアの泥炭湿地林で起きた火災では、その年に世界全体で排出された化石燃料由来の二酸化炭素の13~40%に相当する二酸化炭素量が排出されたと考えられています。

私たちすべてに恩恵をもたらす健全な泥炭地

泥炭地は何千年にも亘って炭素を貯えることで気候を調整し、何百万人もの人々に水を供給し、洪水と干ばつを防ぎ、食糧を供給します。同時に、独特の生物多様性も育みます。また、泥炭地には魅力的な観光地の要素が数多くあり、人の心を惹きつけます。

気候変動緩和のためのホットスポットである泥炭地

これまでに水を抜かれた泥炭地は約15%で、これは地球の表面積の0.4%にも届きません。しかし、比較的狭いこれだけの面積から、排出された二酸化炭素量は、人間活動由来の排出量の5%に相当します。これらの地域が再び水を含んだ状態に戻されれば、二酸化炭素の排出も止まります。



泥炭地の再生は、現在、優先的に対処すべき課題として世界各地で取り上げられています。

自然再生の努力は世界中で行われていますが、現在、水を抜かれた泥炭地の再生が注目されています。その目的は、泥炭地の生態系本来の機能が生み出す、二酸化炭素排出抑制などの多様な恩恵を取り戻すことです。

中国 ルオアルガイ高原湿地

広範囲が劣化してしまった黄河源流部にあるスゲ科植物で構成されるこの泥炭地では、ダムなどを使って、泥炭地を再び湿らせ、自然の水の流れと泥炭地の環境を再生しようとしています。

ロシア モスクワ州

2010年に大規模な火事が発生したことを受けて、農業用に排水されたり産業用の採掘が行われた7万3000ヘクタールの泥炭地で、再湿潤化が行われています。

中国、ロシア、インドネシアの事例について、さらに詳しく知りたい場合は、国際湿地保全連合のウェブサイト www.wetlands.org をご覧ください。

スカンジナビアおよびバルト海沿岸地域

何世紀にも渡って排水が行われてきたデンマーク、エストニア、スウェーデン、フィンランドの泥炭地で、現在、水理学と生態学に基づく集中再生プロジェクトが進行しており、林業用に排水が行われた泥炭地2万ヘクタールが再生されました。この地域のすべての国々における泥炭地の範囲と排出量に関する調査が、北欧閣僚理事会の支援で行われ、次のウェブサイトで見ることができます。
www.norbalwet.org

インドネシア 中部カリマンタン

民間の炭素基金の財政支援を得て、カティンガン地区の泥炭地10万8000ヘクタールで、期限60年の生態系再生権が成立しました。ここは、オランウータンの大きな個体群が生息する生物多様性豊かな場所です。排水溝の閉鎖、伐採の中止、植生の再生などにより再生が行われています。また、地元コミュニティによって、地域の泥炭湿地に自生する植物を利用した、栽培農業が試行されています。

本文書に表明されている見解や名称は執筆者によるものであり、ラムサール条約や条約事務局の公式の見解を表すものではない。教育または非営利の目的での、本文書の全体あるいは一部の複製は、いかなるかたちでも、引用元を明示すれば著作権保有者の特別な許可なく作成して構わない。条約事務局は、本文書を引用した印刷物や資料の送付を歓迎する。特に記載のない限り、本文書はクリエイティブコモンズの表示・非商用・改変禁止ライセンスによって保護されている。



ラムサールファクトシートは、ラムサール条約事務局より電子フォーマットおよび必要に応じて印刷物として、英語、フランス語、スペイン語(ラムサール条約の3つの公式言語)で公開されています。

ラムサールファクトシートは次のサイトからダウンロードできます：
www.ramsar.org/resources

科学技術検討委員会 (STRP) に関する情報は次のサイトで見ることができます：
www.ramsar.org/about/the-scientific-technical-review-panel

ラムサールファクトシートに関するさらなる情報や、ファクトシートの執筆者と連絡を取る方法を知りたい場合は、ラムサール条約事務局 (stpr@ramsar.org) までお問合せください。

ラムサール条約

一般にラムサール条約として知られる「国際的に重要な湿地に関する条約」は地球規模の政府間条約で、湿地と湿地資源の保全と賢明な利用のための国内行動と国際協力の枠組みを提供するものです。単一の生態系に焦点を当てている唯一の地球規模の条約です。